

## 「いつものもしも CARAVAN」に参加しました（2026/3/7-8）

テーマ：市民防災、自宅の耐震化

会場：無印良品 グランフロント大阪

「いつものもしも CARAVAN」は、株式会社良品計画が、「地域とつながる・楽しく学べる」をコンセプトに、誰でも楽しく防災を学べるさまざまなプログラムを提供するイベントです。3月7～8日、無印良品 グランフロント大阪にて「いつものもしも CARAVAN」が開催され、当研究所から佐藤健教授（防災教育実践学分野）、中鉢奈津子特任准教授（広報室）、齋藤由美子助手（上廣防災学寄附研究部門）の3名が参加しました。

7日、中鉢特任准教授と齋藤助手は、「暮らしと備えの相談室—今日からできる、おうち防災—」および「今からできる！暮らしの備え探し—住まいの防災チェック—」のセッションに参加し、講師の Misa 氏（防災士・整理収納アドバイザー）や白水香苗氏（インテリアコーディネーター）が、一般参加者の方々に向けて、暮らしになじむ防災のアイデアやポイントを紹介する様子を見学しました。

また、8日には「明日から出来る防災力を考えよう！—いつものもしも座談会。—」セッションが開催され、大阪公立大学の生田英輔教授、良品計画の本田晃氏、Misa 氏とともに、佐藤教授、中鉢特任准教授も座談会に参加しました。良品計画の福岡慶子氏がモデレーターをつとめ、まず「防災について日々気をつけたり、意識していること」について一般参加者の方々に尋ねました。参加者の方々からは、顔の見える関係づくりや、ローリングストックのリアルな工夫など、さまざまなアイデアが寄せられました。佐藤教授は、「災害時に逃げるべき時、逃げなくてよい場合があり、逃げなくともよい場合は、避難所にいかなくともよいよう在宅避難の準備をしておく」と、「防災の正しい答えは一つではなく、自分にとって大事な人に何が必要かを考えるのが重要」とコメントしました。また、本田氏は、自宅のスペースが限られ、災害時に必要となる水を十分備えておけない悩みを多くの人を持っていることを指摘し、「その対応として、個人的にベランダで雨水を溜める試みを始めた。いざという時に役立てられるか実験中」と述べました。参加者はさらに、「明日からプラスワンでできること」を話し合いました。

このセッションは、話し合っただけで終わらないよう、紙にコメントを書いてペンと紙を自宅に持ち帰る工夫がなされ、専門家、一般参加者、専門家と一般参加者をつなぐ人たちが輪になって、和やかに意見交換できる場となっていました。

今後も、当研究所メンバーはさまざまな方々と協力し、生活の中で無理なく楽しく続けられ、いざという時にリアルに役に立つ防災について、検討を重ねてまいります。



「今からできる！暮らしの備え探し—住まいの防災チェック—」の様子



「無印良品 グランフロント大阪」の会場の展示

文責：佐藤健（防災教育実践学分野）、中鉢奈津子（広報室）、齋藤由美子（上廣防災学寄附研究部門）